

## 厚生労働大臣表彰を受彰して

社会医療法人美杉会 佐藤病院 山本 美佳子

この度の、「厚生労働大臣表彰」受賞に際しましては、大阪府栄養士会会員の皆様のお力添えがあつてのことで誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

長年にわたり（公社）大阪府栄養士会、北河内保健所管内病院栄養士会、日本健康システム学会等の様々な研修会の場で勉強させていただいたお陰であり心から感謝しております。

私の勤務する社会医療法人美杉会グループの栄養部は現在、医療系5施設と介護系16施設全ての給食業務は直営方式で行い、配食サービス事業も展開しています。

入職して35年を迎え、今一度振り返ると、栄養指導は1991年11月より、糖尿病教室を開催。この教室は患者さんの会「ひばり会」を発足し、春・秋のハイキングを行っていました。「ひばり会」の名称は、当病院のロゴマークからきており、淀川の河川敷をひばりが空高く飛んでいる姿に由来するそうです。55歳を過ぎ始めたゴルフですが、その河川敷をラウンドする時、いつもこのことを思い出します。このロゴマークは当法人の医療と介護を表すデザインに進化しました。この教室も生活習慣病予防教室、そして市民健康セミナーへと発展しました。コロナ禍により、市民健康セミナーの開催中止が続きますが、栄養部の基本方針「健康の保持・増進を守るため適切な栄養ケアに努めます」に繋がるように、2021年7月、地域への食に関する情報発信の場として栄養部のインスタグラムを開始しました。食の在宅支援として、1994年10月、訪問栄養食事指導を開始してきましたが、ここ数年ニーズがない状況です。配食サービスは1999年4月、患者さんが退院後の糖尿病食の配食を希望されたのを機に始め、幾多の課題を乗り越え、現在1日昼50・夕100食位の配食を行っています。それぞれのライフスタイルに合わせた食生活、どんな時でも「食」は楽しみであり、四季の食材を使い、限られたお金の中で真心こめて料理することを糧として、食事の提供を続けていきたいものです。

栄養部のあるべき姿を追求したマネジメントを若い世代と一緒にもうしばらく歩もうと考えていますので、何卒よろしく願いいたします。

堺市立三宝小学校 森下 京子

この度は、厚生労働大臣表彰をいただき、身に余る光栄に大変うれしく思っております。大学を卒業後すぐに学校栄養職員に採用となり41年間勤めさせていただきました。

「歌で食育」に取り組んで30年になります。毎日給食時間に歌っています。授業する時のつかみやまとめにも使っています。歌にすると、伝えたいことをコンパクトにまとめ、何度もくりかえすことができ、知識の定着に役立ちます。長く続けていますと卒業生に出会った時に「先生いまでも歌っていますか。“食品ピラミッドの歌”も“豆音頭”も“牛乳マンの歌”もいまでも歌えますよ。」と言われます。学校で歌った歌を家に帰っても歌ってくれて、保護者から「かわった歌を歌っているな。」と思っていたら先生の歌だったんですね。」といわれたりしています。

最近学校ではITがすすんでいて児童1人に1台のタブレットをもっています。コロナの対応で長く欠席するときは、オンラインで教室と家庭をつないで学習します。栄養教諭にとっても獲得しなければならない技術がいっぱいです。食育の教材づくり・対面でないマイクロソフトチームズでの会議や研修、計算ソフトを使っての献立作成、仲間とのデータのやりとり、アンケートの集計などいろいろ便利になってはいるのですが、複雑にもなっています。周りの人に教えてもらいながらなんとか対応していくうちにできるようになるとうれしいものです。困ったことに対応していると人間を成長させてくれます。例えば食物アレルギーの児童がいるとその対応をしなければならないので、勉強しなければなりません、その経験が自分の財産となり次の食物アレルギーの児童への対応がうまくいくようになります。これからも学校健康部会の仲間と研修をつんでいきたいです。そして学校健康部会の管理栄養士・栄養士の最大の願いである1校に1名の栄養教諭が配置されるように実績をつんでいきたいと思います。

最後にコロナ対応で児童は机をあわせてグループで食べるのではなく、前をむいて黙食で給食を食べています。早くコロナが終息して楽しい笑い声のある給食時間がもどってきてほしいです。